

「JSCE2015 JSCE2015 JSCE2015 に基づく活動計画」の報告

活動名 地下空間 夏休み親子見学会「街の地底探検～感じる 考える 地下空間利用～」

活動対象 小学生児童とその保護者（関東地区、関西地区 同時開催）

JSCE2015 との関係

JSCE2015 「10の重点課題」の内、6. 次世代技術者の育成と活用

・若い世代が希望を持てるような教育の推進 に該当

活動概要 2007年8月より実施：2018年は12回目の見学会を実施

テーマ：「街の地底探検 ～感じる 考える 地下空間利用～」

目的：将来を担う子供たちに地下空間への理解を深め、地下空間に馴染んでもらい、地下空間を身近なものにしつつ、将来の土木技術者の裾野を広げる。さらに、夏休みの自由研究課題の題材として活用。

開催日：2018年 東京会場 7月28日（土）（台風により中止とした）

大阪会場 8月4日（土）開催

開催概要：

(1)関西地区

日時：2018年8月4日（土） 13:15~15:30

場所：阪神電鉄梅田駅改良工事

参加者：見学者：20組40名（申込者63組、保護者71名、児童76名、計147名）抽選

その他関係者：学生手伝い5名（関西大学 石垣研、関西大学 尾崎研、神戸学院大学 中山研）
委員会関係者6名

発注者：阪神電鉄 4名、施工者：奥村組JV 12名

内容：1) 委員会主催者 挨拶

2) 発注者挨拶、事業概要説明

3) 発注者から工事説明（阪神百貨店梅田本店建替え、周辺施設整備に合わせた工事）

・阪神梅田駅北側（地下1階）の東西地下道の拡幅整備、

・梅田駅の拡大とホームの拡幅工事（地下2階）

4) 見学（2Fの連絡通路から現場見学、地下12m地点に入り、施工現場見学、再び地上へ出て「薬液注入工事」の説明を受ける）

5) 地下空間クイズ

6) 地下空間博士認定証授与

進行：学会担当者より見学会の趣旨説明

大学生ガイドと一緒にチームを編成し、現場見学実施

地下空間に関する課題の検討（問題形式で全員記述）

・地下空間に造られるものにはどのようなものがあるか

・地下に施設がある事でのメリット、デメリットの検討

・これから地下に出来ると良いものはどのようなものか

・見学実施内容の発表

大学生がリーダーとなり、設問に対する解答の発表

- ・委員による設問の解答と考え方の解説
- ・委員による夏休み自由研究課題への応用の仕方とヒント提供
- ・「地下空間こども博士」の称号授与
- ・保護者への見学会に対するアンケート



(2)関東地区（当日台風関東地区直撃により、前日に中止決定）以下開催予定内容

日 時： 平成 29 年 7 月 28 日（土）13：00 ～ 16：00（終了予定）

場 所： 東京駅北通路周辺整備工事

参加者： 見学者：15 組 31 名 の予定

その他関係者：学生手伝い 3 名（日本大学理工学部 大沢研）

委員会関係者 5 名 の予定

発注者：JR 東日本，施工者：大林組

(3)参考：2017 年度関東地区実施実績

日 時： 平成 29 年 7 月 29 日（土）13：00～16：00

見学先： 相鉄・東急直通線新横浜駅（仮称）

参加者： 保護者 16 名（14 家族）小学生 男子 11 名、女子 5 名 計 32 名

学生手伝い 3 名（日大大沢研） 委員会関係者 5 名 建設通信新聞社 記者 1 名

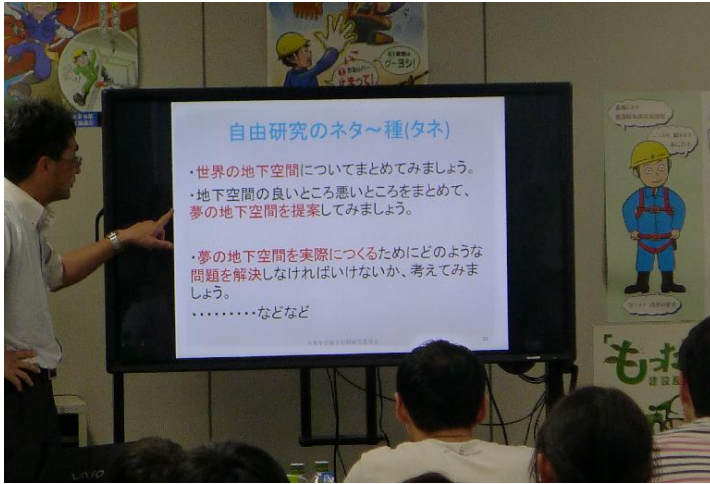
実施内容：

- ・ 委員会の見学会趣旨説明
- ・ 相鉄・東急直通線事業および新横浜駅（仮称）の工事概要説明
- ・ 建設現場見学実施

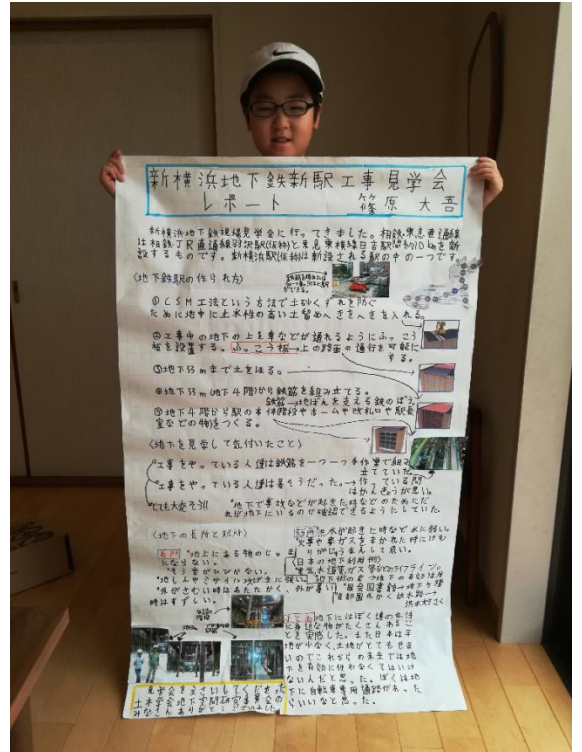
- クイズ、アンケート記入、
地下空間授業（地下にあるもの、地下の長所短所）
- クイズ、アンケート結果発表、保護者へのアンケート実施
- 委員会関係者（大学教員）よりクイズ解説と夏休み自由研究への手引き解説
- 「地下空間子供博士」称号授与



見学会実施風景 及び 認定証授与風景



自由研究レクチャー及び自由研究結果報告（後日）



土木学会・新横浜駅で親子現場見学会 巨大地下空間を体感 新たに16人の「博士」誕生

土木学会の地下空間研究委員会は7月29日、「相鉄・東急直通線、新横浜駅他工事」（横浜市）で夏休み親子現場見学会を開いた。11回目となる見学会には、2〜6年生の小学生16人を含む計36人が参加し、巨大地下空間のスケールを体感した。見学会は地下工事への理解促進などを目的に毎年開催している。現場見学会後に実施するクイズに回答すると、「地下空間こども博士」の認定証が授与される。今回の見学会では新たに16人のこども博士が誕生し、「博士号」取得者は累計244人（大会会場含む）となった。

見学会の冒頭、同委員会の酒井喜市郎幹事長は、「日本の未来を担う小学生に、社会や地下工事をもっと知ってもらいたい」という思いで見学会を企画した。見学会を

契機に、参加者の中から将来、土木の世界を目指す人が出てきてくれればうれしい」とあいさつした。

発注者である鉄道建設・運輸施設整備支援機構の田中淳寛新横浜鉄道建設所長のあいさつに続き、施工を担当する清水建設・竹中土木・熊谷組・松尾工務店JVの柄澤正芳所長が工事概要を説明した。

同工事は、相鉄・JR直通線羽沢駅（仮称）から東急東横線日吉駅を結ぶ約10kmの連絡線を新設し、相鉄線と東急線の相互運転を行う相鉄・東急直通線の一環として、東海道新幹線新横浜駅の駅前付近の主要地方道環状2号線下に開削工法で地下駅を建設する。清水建設JVは、長さ約330mの駅のうち、約250m（西工区124m、東工区126m）を施工する。掘削幅は12.5〜25m、深さは33m。駅舎は



地下33mの軌道場を見学

6、7階建てのビルとほぼ同規模のRC造4層構造で、地下4階が軌道場となる。

概要説明後、参加者は長い階段を下り、地下4階部分に到着。工事担当者にさまざまな質問をしたり、親子で記念写真を撮ったりして、貴重な時間を過ごした。

見学会後は工事事務所に戻って「博士号」取得に向けたクイズにチャレンジし、「どのような工法で

駅をつくられているか」（地下鉄以外に）地下にある構造物は「地下の長所と短所」などの設問に回答した。

「見学会で面白かったところは、」の質問に対しては、「長い階段や足場がジャングルジムみたいだった」「地下33mに駅ができるのがすごいと思った」「アリの巣のようだった」などの回答があった。「地下にあったらいいなと思うも



参加者で記念撮影



一人ひとりに認定証が手渡された。

の」に対しては、水産館や公園、遊園地、サッカースタジアム、大型ショッピングセンター、沖縄までの地下トンネルなど、自由な視点での回答も目立った。親の影響か、「競輪場、競馬場」という回答もあった。

回答発表に続き、委員会幹事の質問応答では、「台風などが来ても工事はできるのか」「事業費はいくらぐらいかかっているのか」など参加者から活発な質問が出された。クイズの回答発表、講義後、清水准教授から子ども一人ひとりに「地下空間こども博士」の認定証が手渡された。

建設通信新聞社の記事